『飯塚毅全集』（全3巻）タイトル一覧

第1巻　職業会計人を天職として（昭和47年～昭和58年）

発刊によせて／格差の類型／税理士業の二律背反性／巡回監査の発想／職員は利己心の道具に非ず／会員の大増強を叫ぶ、必然の論理は何か／黒澤清先生の最高顧問就任の意義と系譜／自ら自分の手で迷いを取り去ること／日本人的発想の類型性／演説の極意について／会計人と宗教／なぜ事務所が発展しないか／盟友との心の握手／会計人による助言領域の拡大／五十歩百歩論の反省／税理士会殿・惰眠から醒めて下さい。／本質の徹見をこそ／TKC議員連盟の誕生について／富士通による全面的支援体制の確立／日本オリベッティ社による支援体制の完成／税理士法改正問題と税理士の進路／税理士の危機の構造とその突破策／会費大幅値下げ断行の論理／学問における根底的なるもの／税法に準拠する記帳義務履行の援助／TKCは他のセンターとどこが違うのか／五人組制度の結成と強化について／自己過信と自信喪失について／租税正義は誰が守るのか／他力本願と付加価値税法／共産主義者とTKC／職業会計人とエゴ／TKC会計人の基礎条件／記帳義務と税務援助と／TKCの現状と将来の展望／無心ということ／㈱TKC金融共済事業団の設立について／小規模個人企業の大量受託と税理士の命運／〝物が見えないのです〟というお話／昭和52年の展望と会員の課題／現状肯定の論理とエゴの問題／職業会計人の独立性について／TKC会計人行動基準書の策定について／先見力と行動基準書／職業会計人の独立性再論／発展格差の原因は、信不信の間にあり／現行税理士法の露骨な欠陥は何か／世にエゴの観念よりも強い敵はない／大蔵官僚の大ヒット、納税者の総背番号制度／なぜTKC会計人は日本を制する、といえるのか／西独連邦大蔵省での講演と税法学辞典のことなど／「正規の簿記・帳簿の証拠性」について／先生! 本質思考能力を……／青申会・法人会の育成は憲法破壊に通ずる／会計帳簿は誰でもつけられるとの論断の誤謬について／誤解、この薫習からの脱却を／TKCは、なぜ政治活動をするのか／なぜ日本の職業会計人は、思想的理論武装を必要とするのか／全国民が正しい納税をすべき制度はできているのか／ドンキホーテの論理／正規の簿記・帳簿の証拠性についての国民的誤解の源――シュマーレンバッハの罪／80年代初頭に立つ予見と展望／過ちては則ち改むるに憚ること勿れ／暴風圏と大使の質問／80年代の職業会計人を貫く論理／改正税理士法成立の次にくべきもの／法制にもっと公正さを与えよ／田中敬大蔵次官の就任の弁を尊ぶ／80年代初期において、改正すべき税法の諸問題／なぜ発展しないのか、その原因は何か／再び人間の生きざまについて／消えゆく会計事務所と生き残る事務所と／商法改正の過程にみる裸の王様／激流にさかのぼる／発展事務所と没落事務所／職業会計人の独立性／事務所発展の秘訣／ベトナムのボートピープル族の増大とTKC会計人／飯塚事件の真相は何だったのか／一即一切・一切即一と職業会計人／死活のふちに立つ会計事務所／職業会計人と憲法／申告書への添付提出を求める「データ処理実績証明書」／共産党系税理士の主張と我らの立場／新年にあたり、申告是認体制の確立を祈りつつ／調査省略・申告是認の体制構築を阻むものは何か／巡回監査実施必然の論理／「監査」は公認会計士の独占用語なりや／勝ち抜く者の条件、瞑想鍛錬／痛快なり、新長官／会計人よ、進路の予見を誤るな／税務会計の監査人に法的権限を与えよ／あなたは、ホントに職業会計人だ、といえるか……／社会形成の原動力たる法の機能に目醒めよう／国税庁通達の三重構造の淵源とその批判／税法条文策案執筆の条件／理想型の設定と法理の習得／職業会計人のイデアールティプス再論／マルクス理論の戦略性と、わが国租税法律主義の虚構性／租税回避について／なぜ書類範囲証明書の添付が必要なのか／電算機会計の法による規制の問題／電算機会計とわが国の税理士法／脱税・この愛しきもの／日弁連同様に、浸蝕される税理士会／福田前国税庁長官に叱られました

第2巻　租税正義を実現するために（昭和59年～平成3年）

エジプト共和国アリ外相との対談・世界空手道大会始末記／開業等の届出に関する再論／租税回避と脱税／調・申体制構築上の諸問題／会計人の生き方の根本問題／身辺三題／誤解／抜隊禅師とその語録／松島の瑞厳寺とわたくしの参禅／租税法律主義と罪刑法定主義／“a true and fair view”の本質／第三次商法改正をめぐる誤解と謬論／DATEV Ⅲ 落成式典とTKCの対応／このままでは、一般消費税、売上税、蔵出し税は必ず失敗する。／大学教授による錯覚の誘惑／空の確証体験と自己の運命形成力の獲得／租税正義（の原則）とは何か／会計における地殻変動／税理士業の消滅と、公認会計士との一本化の問題／レーガンの税法改革案の背景にあるもの／税法学の特殊性に関する理解不足の危険／税理士の泣きどころ・再論／有権解釈規定の絶望的な欠落を嘆く／実質課税の解釈方法を明文化して頂きたい／なぜ平等原則を貫けぬ／正義とは何なのだろうか／法の変動期における私見の介入支配／日本の税理士の代理権と独立性／税法の解釈適用の限界認識の必要性／商法改正試案の悲惨／政府および国会は、いつまで怠慢を続けるのですか／実質課税の原則／続・実質課税の原則／もう税理士法は改正すべきだ／商法改正上の若干の障害について／彼らは法律を知らない／商法はもっと会計学に踏み込め／もっと会計に法律を／イギリスの最新会社法管見／新アメリカ内国歳入法の罰則／会計事務所40年／脱税防止の問題／TKCの上場、方針転換?／一流会計人の証とTKC／日米で相違する一般に公正妥当な会計処理基準／商法改正と税理士会の選択の焦点／一隅を照らす国宝なりや／誤解と錯覚を排した人生を／会計法人・税理士法人設立の問題／国会議員先生、もっと頑張ってぇ／大蔵省政府委員の発言を惜しむ／消費税法雑感／類推解釈禁止の原則について／増差税額の徴収猶予について／大蔵省は脱税犯の製造機関なのか／税理士会のあり方を考える／記憶の力をどう養うか／年頭の課題認識／瞑想の実践／どこまで続くぬかるみぞ／職業会計人の諸相と当為／今次の第三次商法改正に関する意見／激震襲う欧州共同体、その統一法指令とイギリス法管見／監査の新時代と日本の会計制度／社会科学領域における日本法制の劣化現象／ニューヨーク大学の講義を裸にすれば／TKC会計人への警鐘／なぜ公認会計士の一挙的増員が必要なのか／第四次商法改正に向けて／第四次商法改正に当たっての難関の克服策は／巡回監査をやらない者は、日本の会計人ではない／ドイツ税理士法解説・訳者序文／完全性宣言書の徴求について／ドイツ短期滞在記／SEC論議に思う／なぜ君は死を急ぐのですか／果たして日本は法治国なのか

第3巻　利他行に徹して成長発展する（平成4年～平成9年）

なぜこうも孤立化を求めるのか／新春の誓いを祈る／担雪埋井とTKC会計人／背筋が凍る危機経験と職員教育／なぜ巡回監査は絶対必要なのか／イメージ形成が決め手だ／世界の第一級の会計事務所を目指す／公認会計士と税理士、どちらが難しいのか／監査実施準則の改訂に伴う確認書の徴求について／日本税理士会連合会会長への手紙／会計人の独立性とは何か／租税正義とはどういうことか／企業会計原則は理由なく廃棄された／一問と一答と／元旦の長い妄想のことども／原点の会有志との一問と一答と／会計人の転換期到来（会員各位の見解を問う）／租税正義／21世紀に向けての政策課題「TKC全国会の結成目的を再確認する」／千載一遇の好機到来す／千載一遇の好機に臨んで／歳入欠陥を克服する途／対談　自民党副幹事長　町村信孝氏／オウム真理教と宗教／「光明無背面」／対談　日本税理士会連合会会長　平田公敏氏／TKC会計人の生き方／対談　髙橋宗寛和尚／対談　商学博士　染谷恭次郎氏／対談　日本大学法学部教授　松沢智氏／対談　太田昭和監査法人会長　矢澤富太郎氏／鼎談　富士通株式会社代表取締役会長　山本卓眞氏／鼎談　日興證券株式会社副会長　岩崎琢弥氏／鼎談　DATEVハインツ・セビガー氏（Dr. Heinz Sebiger）・ドイツ連邦税理士会連合会事務総長　法学博士　ホルスト・ゲーレ氏（Dr. Horst Gehre）／対談　大同生命保険相互会社代表取締役社長　平野和男氏／小選挙区比例代表並立制に思うこと／鼎談　衆議院議員　森喜朗氏／松沢智教授をTKC全国会副会長に推挙する／信じるも 信じないも／「般若心経」第一句の実践／母親の影響力というのは大きいものですね／人生における邂逅の重大さ